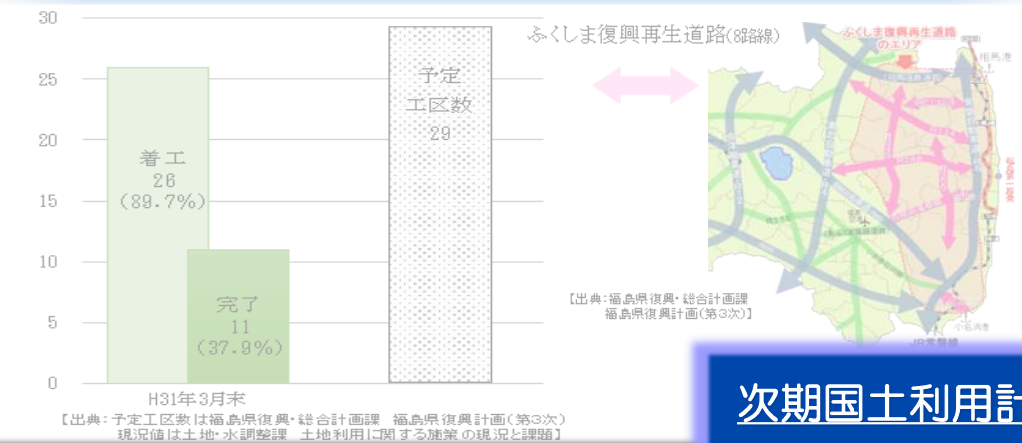


復旧・復興・再生のための土地利用

具体的な取組

【ふくしま復興再生道路の整備】

・復旧・復興・再生に向けた土地利用の一環として、避難指示が発出された地域及びその周辺の復興と避難住民の帰還を加速させるため、「ふくしま復興再生道路」として、8路線を位置付け、2020年代初頭までの完成を目指して、整備を進めています。

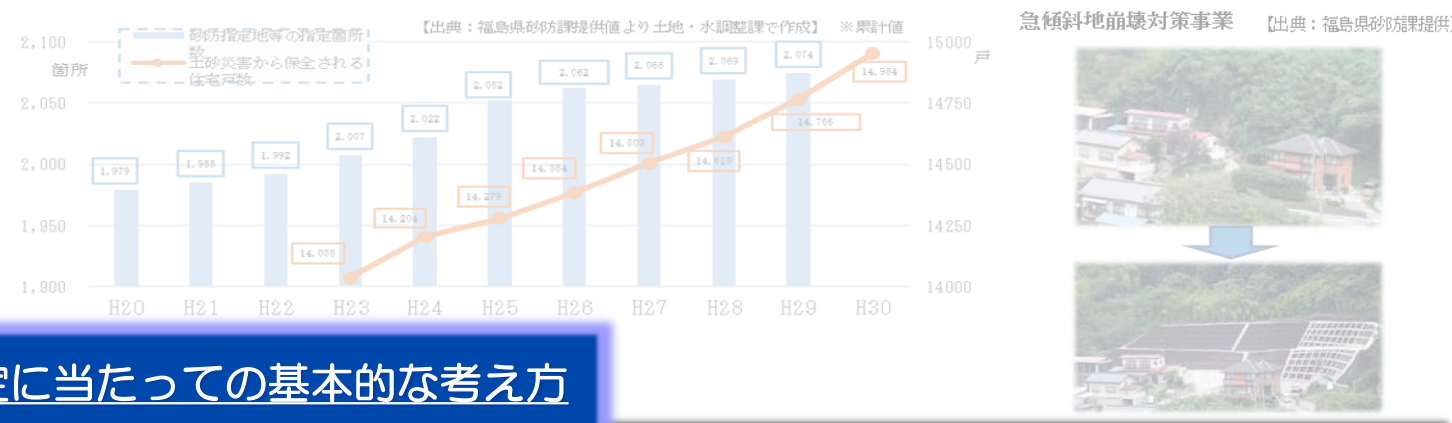


土地利用の質的向上 災害に強い県土づくり

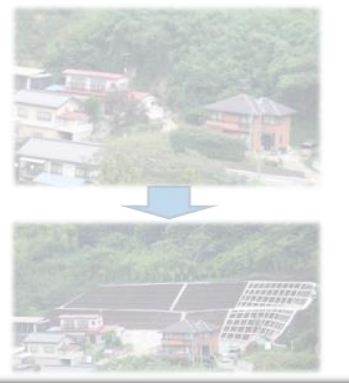
具体的な取組

【砂防指定地等の指定】

・砂防指定地等（砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域）の指定箇所数は、平成20年度から平成29年度までの10年間で95箇所増加し、2,074箇所となっています。
・ハード事業の推進により、土砂災害から保全される住宅戸数は、平成23年度から平成30年度までの8年間で916戸増加しました。



急傾斜地崩壊対策事業



次期国土利用計画策定に当たっての基本的な考え方

- 県土の魅力を高め、より良い状態で次世代へ引き継いでいくために必要な土地利用
- 活力ある県土づくりに向けた土地利用
- 県土の安全性を高める土地利用
- 持続可能な社会の実現に向けた土地利用
- 人の営みと自然の営みが調和した土地利用

主な課題と今後の方向性

課題	方向性
国へ福島復興再生特別措置法に基づく財源措置や一部事業の直轄権限代行を求める等、整備手法を含めて戦略的に整備を進めていく必要がある。	2020年代初頭までの完成を目指す。

主な課題と今後の方向性

方向性	課題
土砂災害の発生状況に応じて、砂防指定地、地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域の指定が必要な箇所において逐次、指定を行っていく。	近年、局所的な豪雨の増加により全国各地で土砂災害が頻発している。本県でもこれまで多くの土砂災害が発生していることから、県民の生命・財産を守り、安全・安心な生活環境を確保するためハード・ソフト両面の対策を推進していく必要がある。

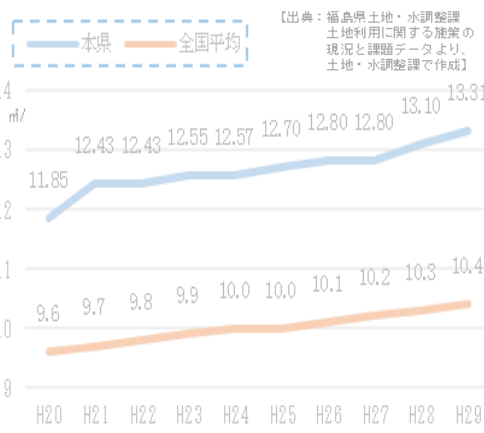
主な課題と今後の方向性

課題	方向性
次の世代に引き継ぐべき資産として都市公園等を確保する必要がある。	都市公園をはじめとする様々な公園の整備を進めていく。

主な課題と今後の方向性

方向性	課題
県土の連携軸を強化し、産業の活性化と生活圏相互の交流を推進する。	地域の連携を強化し、地域間の交流促進を図る基盤施設としての高速交通ネットワークの充実が望まれる。

◆一人あたりの都市公園面積（平成30年3月31日現在）



土地利用の質的向上 美しくゆとりある県土利用

具体的な取組

【都市公園の整備】

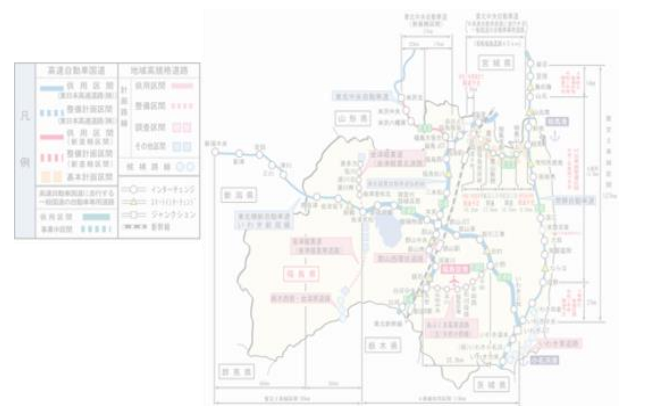
・本県では、平成30年3月末現在、13市18町3村において都市公園が設置されており、開設公園は1,170箇所、2,303ha、都市計画区域内の人口1人当たりの公園面積は13.31㎡となっている。これは、平成30年3月末の全国平均を上回っているものの、東北6県では最下位となっています。

地域の活力を支える土地利用

具体的な取組

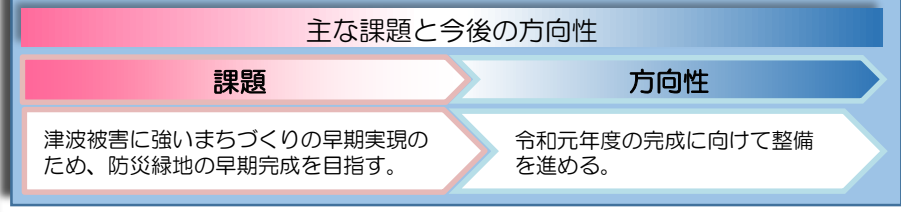
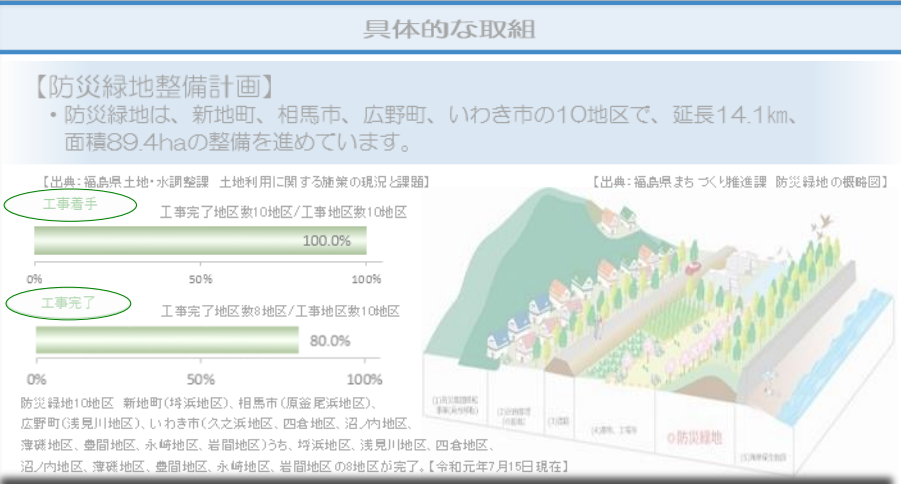
【高速自動車国道等の整備】

・平成22年度以降、常磐自動車道は、平成27年3月1日に128kmの全線開通済。東北中央自動車道は、「福島～米沢北間」が平成29年11月4日に供用が開始され、「相馬～福島間」は、相馬山上IC～霊山ICまでが平成30年3月10日に一部供用開始。会津縦貫北道路は会津若松北IC～喜多方ICまでが平成27年9月6日に一部供用が開始されています。

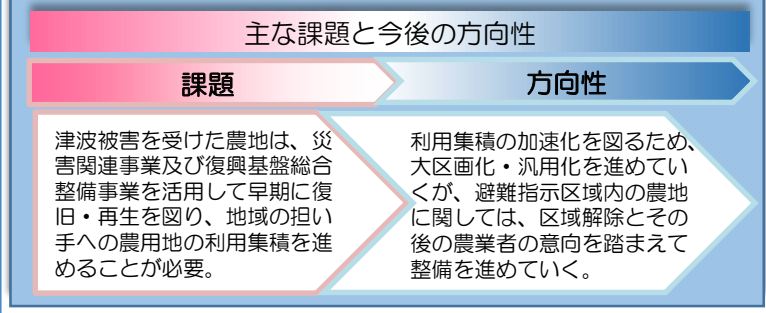
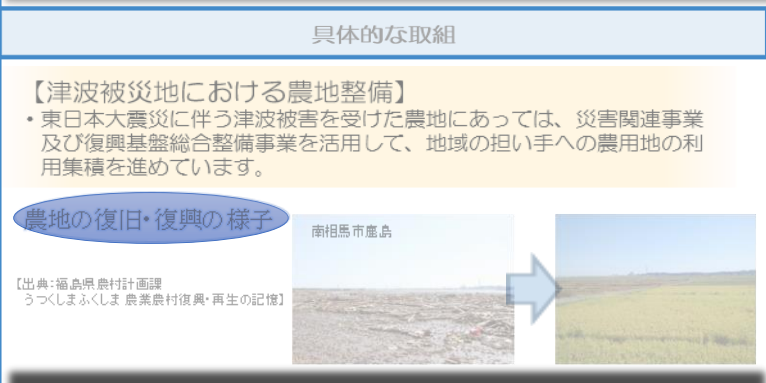


次期国土利用計画策定に当たっての基本的な考え方（第五次国土利用計画点検結果から 2-2）

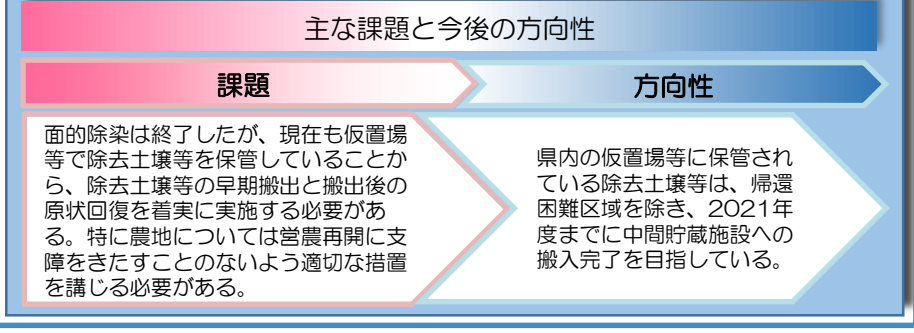
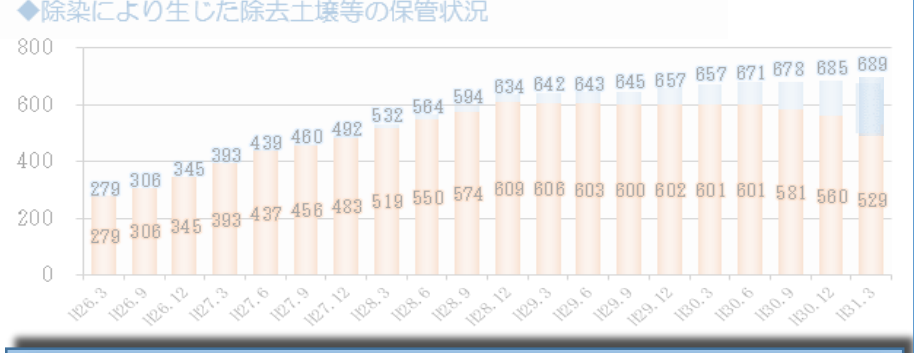
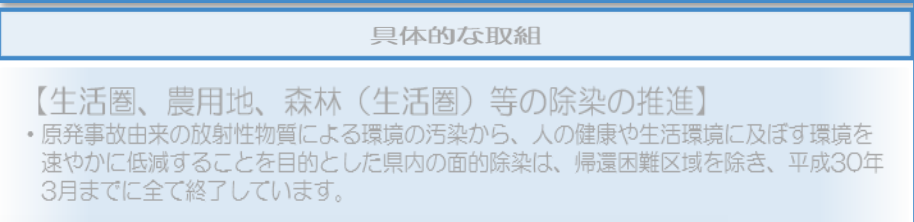
復旧・復興・再生のための土地利用



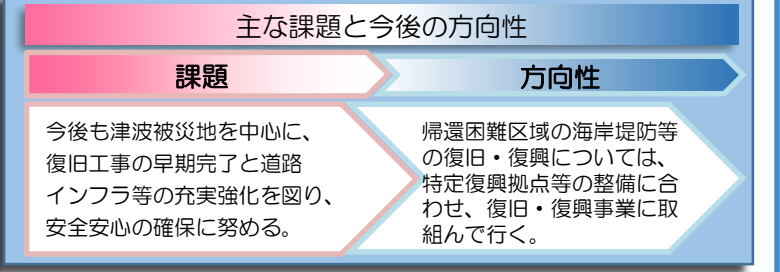
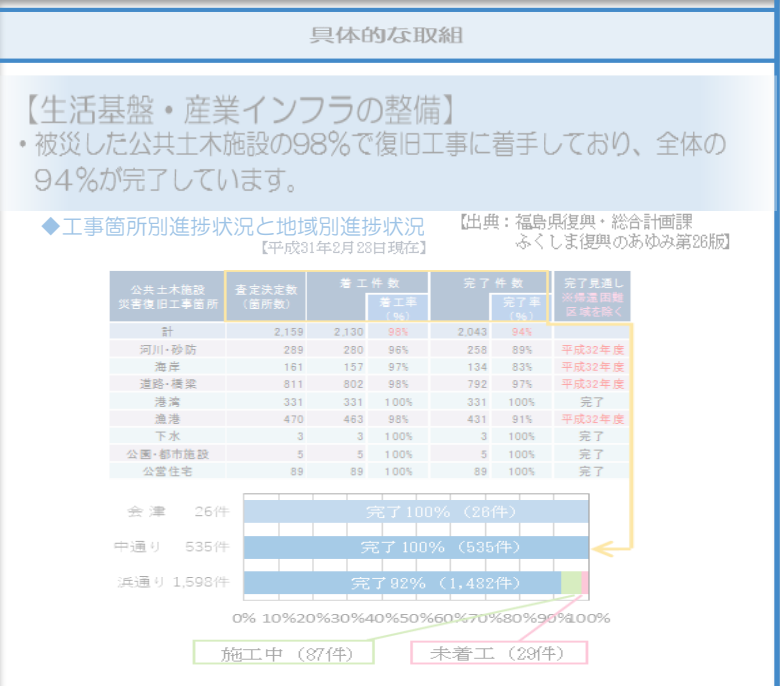
復旧・復興・再生のための土地利用



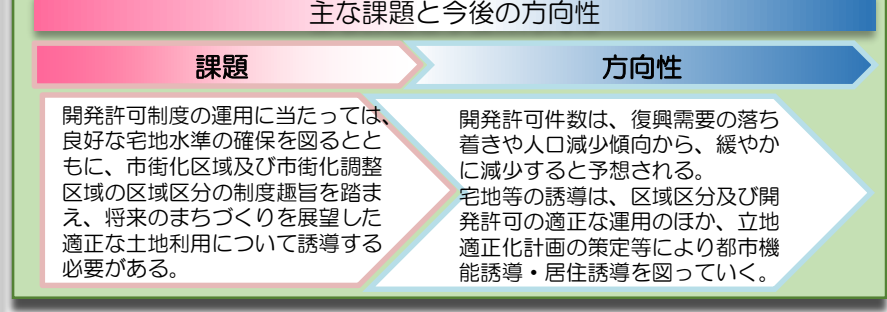
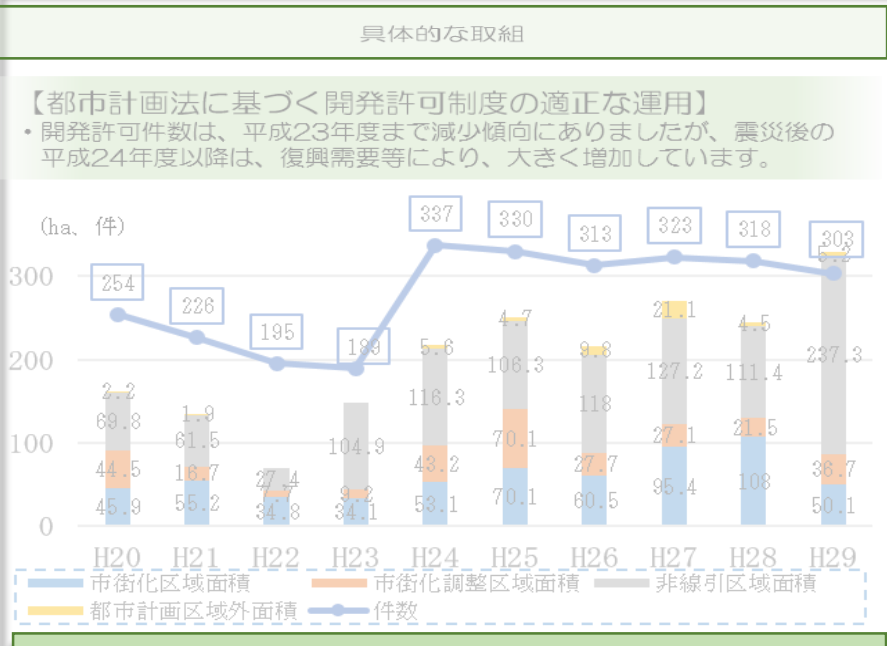
復旧・復興・再生のための土地利用



復旧・復興・再生のための土地利用



土地需要の量的調整



土地利用の質的向上 循環と共生を重視した土地利用

